

ころもがわ



建築士と一緒にペンキ塗りに挑戦する子どもたち

子どもたちが描いた絵を基に家を作る「夢のお家をつくろう」が7月1日、市立あゆみ園（菅原昭子園長）園庭で行われました。同園の園児ら約70人が参加し、かなづち・のこぎり体験や家の塗装に挑戦しました。

この催しは、子どもたちにもものづくりの楽しさを知ってもらおうと、岩手建築士会奥州支部が平成5年から行っているものです。建築士が組み立てた「虹の家」「お菓子の家」「ウサギの家」に、園児たちがブラシを使って色とりどりのペンキを塗りました。熊本怜央君（5）は「初めてペンキを塗って楽しかった。建築士さんはすごい」と、目を輝かせていました。

園児たちが家づくりに挑戦
夢のお家をつくろう in あゆみ園

まちの話題



前沢牛のさらなる発展誓う

前沢牛東京出荷40周年記念式典

前沢牛東京出荷40周年記念式典（岩手ふるさと農業協同組合主催）が6月5日、JA岩手ふるさと前沢地域センターで行われました。生産者や市場関係者ら約90人が出席し、祝辞や感謝状の贈呈などで節目を祝いました。

初めに、岩手ふるさと農業協同組合の門脇功会長が「前沢牛ブランドを築いてきた生産者や市場関係者の皆さんに感謝したい。これからも研さんを重ね、安全・安心の前沢牛提供に取り組んでいく」とあいさつ。続いて小沢昌記市長や東京食肉市場㈱の深石勝事務らが祝辞を述べました。

前沢牛は、品質改良や生産技術の向上などで肉質を高め、昭和53年には東京食肉市場の通常出荷で、枝肉販売価格で当時の日本一の記録を樹立。その後も数多くの牛肉品評会で優秀な成績を収めるなど、高級ブランド牛として確固たる地位を築いています。



前沢牛の販売などに尽力した企業17社に感謝状などが手渡される

まえざわ

国を越え中学生同士が交流 ブルジャン中の生徒らが来奥

市立前沢中学校（阿部正孝校長）の姉妹校となっているアメリカ・ブルジャン中学校の生徒ら16人が、6月18日から27日にかけて前沢区を訪れました。

両校の訪問は、交流事業の統合で途絶えていましたが、ブルジャン中からの打診があり実現したものです。訪れた生徒らは、区内の一般家庭に泊まりながら、和太鼓や習字、もちつきなどを体験し、日本文化に触れました。21日には、前中生と北上川ゴムボート下りに挑戦。途中で雨が降り出すあいにくの天気でしたが、ブルジャン中の生徒は「エキサイティング（面白い）！」と叫びながら、川下りと交流を満喫していました。



笑顔でボート下りを楽しむ両校の生徒

地域のみんなで作る花の道 フラワーロードで花を植栽



協力しながら植栽する参加者

水沢フラワーロード運営委員会（菅原睦夫委員長）が主催する「水沢フラワーロード全体作業（花植栽）」が6月12日早朝に行われました。

大人から子どもまで約600人が参加し、ジニア1万1,500本、マリーゴールド3,500本を植栽。すがすがしい朝の空気の中、参加者は笑顔で作業に取り組み、開花を楽しみにしていました。この取り組みは、市民憲章推進活動の一環として昭和57年から続けているものです。水沢区卸センター近くの国道4号沿い、全長約600メートルのフラワーロードが花で埋め尽くされるのは8月ごろです。ぜひ一面の花をご覧ください。

いざわ

植樹から10年、ブナよ育て 22世紀ブナの森づくり草刈り作業



焼石の山に草刈機の音が響きました

胆沢ダム上流のつづ沼園地周辺にある22世紀ブナの森づくり事業のほ場で6月23日、市とエコワークいざわ水の郷（佐々木寿雄代表）などによるブナの下草刈りが行われました。

このブナは、22世紀に胆沢ダム上流の水源地保全を果たすよう平成12年から植樹されてきたものです。最初に植えた苗木は、人の背丈を越える大きさに成長。この日は市建設業協会胆沢支部や関係機関の職員を含め約80人が参加し、蒸し暑い天候の中、子どもたちが植樹してきた6,150本のブナがよく育つよう丁寧に草を刈っていました。8月以降にも作業をする予定です。

親子であそびの魅力再発見 藤里チャレンジ・ザ・ゲーム大会

市レクリエーション協会（油井明会長）が主催する「藤里チャレンジ・ザ・ゲーム大会」が6月13日、市立藤里小学校で開催されました。同小2年生と保護者ら約100人が参加。2本のスティックを離し、隣の人のスティックをつかむ「キャッチング・ザ・スティック」など全6種類の遊びにチャレンジしました。

これは『『あそびの日』キャンペーン』に合わせて開催されたもの。夏日のこの日、会場は参加者の歓声や熱気に包まれ、遊びを通して交流を深めました。高橋陽誠くん（同小2年）は「今日はお父さんと一緒にいろんな遊びができて楽しかった」と話していました。



息を合わせて「トン・トン・パッ」

えさし